

連載
第3回

教師としての視野を広げる！ 世界の日本人学校 マンスリーレポート

グローバルな現代社会。教室には、海外につながるのある子供たちも少なくありません！
教師としての国際感覚を磨くため、海外の日本人学校の様子を毎月レポートします。

在外教育施設について

海外で日本の教育を受けることのできる教育施設で、「日本人学校」「補習授業校」等があります。現在、保護者の勤務の都合等で海外に滞在している日本の子どもたちは約8万3000人。このうち、約4万1000人が在外教育施設で学んでいます。

ニューデリー日本人学校

今野 未由貴(この みゆき)

平成27年度赴任の4年目(現在小学部1年生担任)



1 赴任したきっかけを教えてください

私が教師として海外に行きたいと考えるようになったのは、大学生の時に続いていた外国人の子どもたちへの学習支援ボランティアがきっかけです。ボランティアを通して、日本の学校現場では外国人の親をもつ子どもたちへの配慮や支援が必要であることを学び、国際感覚を身に付けた教員を目指したいと思うようになりました。さらに、帰国子女の子どもたちも同様であることや、海外には日本人学校がたくさんあること、海外でもがんばっている子どもたちがたくさんいることも知り、関心を持ち始めました。大学の掲示板にあった募集を見て、すかさず「これだ！」と迷いもなく応募しました。派遣先がインドになった時は正直戸惑いましたが、今は日本に一時帰国すると「早くインドに帰りたいな」と思ってしまう。



学校の中庭にて全校で集合写真

2 学校の概要を教えてください

ニューデリー日本人学校は、1964年創立の世界で3番目に古い日本人学校です。小学部・中学部の児童生徒約270名が在籍し、同じ校舎で過ごしています。本校の校歌の歌詞には、「みんなの学校 いつまでもみんなで築き 育てよう」という部分があります。これまでの伝統を継承して、さらに発展させながら新たな伝統を築いてよりよい学校にしようという精神をみんなで大切にしています。小学1年生から始まる英会話授業や、4月から9月にかけて力を入れて学習する水泳授業、小学部と中学部が一緒に取り組む多くの行事などは、この学校ならではです。 Dengue熱が流行する雨期や、大気汚染がひどくなる冬頃は、学校が力を入れてその対策に取り組んでいます。



学校のセキュリティゲートを抜けるとスクールバスが並んでいます

海外で働く 学校採用教員Q&A

- Q5** 日本人学校や補習授業校の教員構成は？
A5 日本人学校は文部科学省が派遣する教員、学校が直接採用する教員(現地採用教員、学校採用教員)で構成されています。一方、補習授業校は規定を満たした学校には文部科学省から教員が派遣されておりますが、ほとんどは現地採用教員、学校採用教員、保護者等のボランティアなどです。
- Q6** 学校採用教員の担当する職務は？
A6 常勤で、文部科学省からの派遣教員と同様の職務を担当します。クラス担任や校務分掌の担当をすることも、委員会活動やクラブ活動、部活動がある学校ではその担当もします。

海外子女教育振興財団

海外子女教育振興財団 (Japan Overseas Educational Services=JOES) は、1971年に外務省及び文部省(現文部科学省)の共管の財団法人として設立され、2011年には内閣府の認可を受け公益財団法人となりました。設立以来、海外子女・帰国子女教育の振興を図るため幅広い事業を実施しており、学校採用教員の雇用支援もその一環として行っています。

日本人学校等学校採用教員雇用支援、「学校採用教員レポート」などについて、詳しくはこちらから<http://www.joes.or.jp>



3 この国の学校ならではの！という特徴は何ですか？

現地校の児童生徒を迎えて日本の文化を伝えながら交流をする「ようこそ！ JAPAN☆DAY」、インドの文化を体験する「ナマステ！ INDIA☆DAY」という行事があります。「ようこそ！ JAPAN☆DAY」に向けては、各学年で催し物を考えて準備をし、英単語や会話の学習もします。今年度、小学1年生は、日本の折り紙と盆踊りを教えておもてなしをしました。「ナマステ！ INDIA☆DAY」では、校庭にゾウやラクダ、オートリキシャーがやって来て、実際に乗ることができるので、子どもたちにとって一大イベントとなっています。また外部講師をお招きして、インドの様々なダンスやアート、料理などを学ぶことができます。



現地校の友達をみんなで歓迎

4 学校で勤務した感想を教えてください

忙しく目まぐるしい毎日を過ごしていますが、子どもたちの成長を身近に感じながら、やりがいをもって働くことができます。初めは新卒で分からないことだらけでしたが、子どもたちに合わせて授業準備をしたり、いろいろ実践してみたりなど、日々の積み重ねによってだんだんと仕事にも慣れていきました。1年目は副担任として、小学部と中学部の様々な学年の教科を担当していたので、それぞれの学級の様子や先生方のスタイルを見ながら学ぶことができ、担任になってからはそれを生かすことができている。



大きなゾウに乗り大興奮

5 教え子が帰国したとき、日本の先生方に伝えたい伝達事項は何ですか？

現地生活や海外生活が長い子どもたちについては、日本の文化や習慣に慣れ親しんでいない子ども中にはいます。例えば、日本の桜を見たことがない、お祭りに行ったことがないといったこと、学校給食を食べたことがない、友達と放課後に自由に外で遊んだことがないなどです。日本の学校に通うようになったら、日本の子どもたちが当たり前のようにしていることが初めての経験となる子どもたちもいると思います。ですので、当たり前のこともその良さや楽しさをたくさん教えていただきたい、日本の文化になるべくたくさん触れさせていただきたいというふうに思います。



低学年合同の読み聞かせ会